

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500156		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホーム 心音		
所在地	山口県周南市大字久米3146番地		
自己評価作成日	平成25年3月18日	評価結果市町受理日	平成25年9月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年4月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方へは家族として日々の暮らしを支え、健康でお過ごしいただける安全を確保してさしあげること、またご家族へは安心していただけるように、を一番に考えて喜怒哀楽のある普通の生活を送っています。ご家族のご希望があれば高木内科クリニックの高木医師と連携し看取りをさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりができる事やできない事を把握され、利用者個々に合わせて支援されることで、できることが継続し続けられるよう取り組まれています。利用者の重度化や終末期に向けた備えもあり、家族が寝泊まりできるミニキッチンを備えた部屋や風呂、トイレ等が確保され、事業所の玄関や共用空間を妨げないよう部屋には出入り口を設けるなど、工夫されています。事業所は、木をふんだんに利用した落ち着いた平屋の建物で、地域の人も利用できるミーティングルームや足湯などを使い、地域交流が出来るよう工夫されています。ボランティアも7人確保されており、事業所が実施する餅つきや敬老会、外出などの時に協力を得ておられます。職員を育てる取り組みとして月3回の内部研修を実施され、薬剤師による研修やテーマを決めた研修の他、外部研修や資格取得についても支援に取り組まれるなど、働きながら知識や技術が身につくよう支援されています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ理念に沿って実践するよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、玄関に掲示して、ミーティング時や日々の介護を通して職員全員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として交流している。	自治会に加入し、地域の草取りや夏祭り、幼稚園の運動会に参加している。事業所の餅つきや敬老会に地域住民やボランティアの参加がある他、散歩時などに地域の人と交流している。事業所の行事等のチラシを地域に配布し、回覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会の案内や、問い合わせ等を行い理解していただけるようにしているが、十分とは言えない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価で、振り返りを行い改善に取り組んでいる。	評価の意義について運営者や管理者、職員は理解しており、項目別に自己評価に取り組み、管理者が取りまとめている。「重度化や終末期対応」「利用者の自己決定」等の課題についてミーティングや研修等で職員のレベルアップを図り、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや結果を報告しサービスの向上に努めている。	同一法人のグループホームと合同で地域関係者やボランティア、家族等12人～13人のメンバーで2ヶ月に1回開催している。事業所の状況やヒヤリハット事故等の報告をし、意見交換をしている。薬剤師による薬についての話、認知症やその対応についての家族の意見や提案等をサービスに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や報告等を密に行い、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議の他、担当課に電話や出向いで行き、情報提供や報告、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をせずに、安全な対応を考え取り組みを行っている。	身体拘束については、全職員が正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にならないよう職場環境を整えるよう努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修は行っているが、現状必要性がない為関係者との話し合い等には結びついていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には理解いただけるよう説明を行い、サービス開始後の変更等にはその旨報告し説明を行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け付けた場合は、早急に対応し改善策等の報告を行う。運営推進会議で報告し運営に反映させるようにしている。	苦情の受け付け体制や処理手続き、第三者委員を明示し、契約時に利用者や家族に周知している。電話や面会時、運営推進会議の参加時などで意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎日ホーム内の状態を把握し、職員とのコミュニケーションを取り意見や提案が伝えやすい環境であるよう努めている。	代表者や管理者は、ミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。出た意見は、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力や勤務状況を把握し、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日ホームに出向き、職員の状態に目を向け、ケアの実際と力量を把握し法人内外の研修の確保をしている。	外部研修は勤務の一環として受講の機会を提供している他、資格取得の支援もしている。内部研修は毎月3回実施しており、1回は薬剤師による薬の内容や副作用について、2回はテーマを決め必要な研修を行い、随時のテストで知識の確認を行うなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	食事をする機会を持ち交流する場を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞き不安を解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報や要望をお聞きしながら支援させていただき信頼していただけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とされる支援方法を見極め対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という意識で日々の生活を送っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携をとり共に支えあう関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、日々の会話の中で関係性が継続できるようにしている。	友人の来訪、家族の協力を得ての外出や外泊、買い物、法事への出席、馴染みの美容院の利用など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を大事にし、活動時や座席の位置等を考慮し孤立しないようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事に参加いただいたり、命日やお盆のお参り等させていただき関係を継続させていたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意見を聞いて、できるだけ希望通りにできるように努めている。	日々の関わりの中での表情や言動を経過記録に記録し、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを開始するにあたり、ご家族や担当の介護支援相談員等から情報を収集し把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を細目に観察し適切な支援が行えるように、全職員が情報を共有し把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきやアイディアを関係者と話し合い、介護計画に反映させている。	家族や医師などの意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護認定期間に合わせ介護計画の見直しをする他、利用者の状態の変化に合わせてその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に記入し職員間で共有し、日々の支援方法や介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに合った支援ができるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体の状態に応じて、近隣の幼稚園等の行事に参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始時に、ご家族のご意向等お聞きし適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の医師をかかりつけ医としており、定期的な受診や必要に応じた往診がある他、他科受診の際にはかかりつけ医の紹介状を持参するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報を報告し、利用者の方が適切な受診や看護を受けられるように連携をとっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療ができ、早期退院に向けた連携を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族と話し合いを行い事業所のできることを十分に説明しながら方針を決め、連携の医療機関の医師と共に終末期に向けての取り組みをしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に事業所の方針を家族に説明している。重度化した場合は、早い段階から医師、家族、職員等で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	慌てず対応ができるように研修・訓練をしているが、実践力は発生時に活かされる為、更なる知識や技術を常に身につけるようにする必要がある。	マニュアルがあり、事故発生時に備えて、AEDを設置し定期的な救急救命研修や訓練を実施している。ヒヤリハット・事故報告書を活用し、同じような事故が二度と起こらないよう話し合い、誤薬や服薬管理については定期的に薬剤師の指導を受けている。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に協力をお願いしているが、慌てず対応ができるように研修・訓練をしているが、実践力は災害時に活かされる為、常に身につけるようにする必要がある。	年2回 消防署や運営推進会議メンバーの自治会長なども参加し消火、通報訓練を実施し、1回は夜間想定で、利用者も参加し実践的な避難訓練を実施している。地域への協力は口頭で依頼しているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共に生活する家族として、また大事なご家族をお預かりしているという両方の気持ちを持って言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう促し、言葉かけだけでなく動作での表現を行い支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意見を聞いてできるだけ希望通りにできるように努めているが、職員側の都合で支援しようとする事がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、ブラッシングできる方はブラシと鏡を用いて行えるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやテーブル拭き等、状態や力量に応じて一緒に行っている。	調理担当の職員を確保し、利用者の希望を聞いて献立を立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえや盛り付けなどをして、職員と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や活動量等に応じた食事量や水分量で、体重とのバランスも考慮し支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方は自分で口腔ケアを行っていただき、できない方は介助で行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、個々に応じたトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤だけに頼らず排便のリズムを把握し、飲食物で調整を行い個々に応じた取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状況や希望に合わせて入浴できるように支援している。	入浴時間は、10時から11時30分頃までで、一人ひとりの希望や体調に合わせ入浴できるように支援をしている。入浴をしたくない利用者には職員が交代して声かけしたり、タイミングを見計らうなどの対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や午前と午後に希望や状態に応じて対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携を行い、薬剤の効果や副作用について理解し常に把握できるように努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態や能力、希望に応じて支援している。	食材の下ごしらえ、盛り付け、歌、ハンドベル、塗り絵、洗濯物たたみ、写経、手工芸、餅つき、ピアノを弾く、足湯を楽しむなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアの方の協力やご家族と、外出頻度は少ないが、個々の状態や希望によって支援している。	事業所周辺の散歩や近郊の食料品店での買い物、外食、ボランティアや家族の協力を得ての季節の花見や外出など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持されていないが、買い物時一緒に支払をして支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる方はおられないが、電話がかかってきたら話しされたり、季節の便りが出せるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設ではなく生活の場として暮らせるように、また不快や混乱をまねかないように配慮している。	共用空間は、温度や明るさに配慮し、建物の他、テーブルや長椅子などにも木をふんだんに利用して、ぬくもりを感じることができる。フロアの一角に畳を敷き、利用者は寝たり足を投げ出す事が出来るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。リビングから通じる前庭の足湯で、利用者は庭の木々を眺めながら季節を感じて、地域の人とも会話を楽しむことができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者の関係を崩さないように座席の位置や活動に配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時の家具類や持ち物は使い慣れた物の搬入をお願いしている。	ベットや衣服、布団、整理タンス、テーブル、椅子、カーペット、写真など使い慣れたものを持ち込み、壁面に利用者の作品や家族の写真が飾っており、安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように配慮している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム心音

作成日：平成 25 年 9 月 9 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	研修や勉強会で学ぶ機会を設けているが「ひやりはっと」の報告もあり、防止に対する取り組みを強化する必要がある。また緊急時如何なる状況にも全職員が迅速な対応ができるようにする。	同じ内容のひやりはっと報告書が出ないように取り組む。 あらゆるリスクを想定して対応ができるようになる。	勉強会で様々なリスクを考え防止策や改善策について学ぶ機会を増やす。	3ヶ月
2	36	災害時の避難や救護に対して、更なる地域との連携が必要である。	災害時には地域との連携で安全に避難できる環境整備を行う。	地域や消防署を交えての避難訓練や災害時についての勉強会を増やす。 地域にグループホームでの生活を理解していただき、災害時等の協力の必要性を周知していく機会を持つ。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。